

縁に導かれて

天皇陛下の即位を祝うパレード「祝賀御列の儀」が今月十日に行われました。

天皇陛下が皇后さまと共に広く国民に即位を披露し、祝福を受けられるパレードはテレビで放映され、大正・昭和・平成と令和天皇の時代に生きてこられた御利用者の皆様は共に感無量でそのお姿をご覧になっていました。

そして両陛下と言え、来春五月三十一日に、島根県大田市にある三瓶山北の原で行われる「第71回全国植樹祭しね2020」におみえになります。この全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的な行事として昭和二十五年以来、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地から緑化関係者等の参加を得て、両陛下によるお手植えや、参加者による記念植樹等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に、毎年開催されています。（林野庁から一部引用）

島根県は一九七一年以来二回目の開催。大会テーマに選ばれた「木でつなごう人と森との縁（えにし）の輪」。

この度の天皇陛下御即位と、全国植樹祭で両陛下が三瓶へお見えになる：何かの縁に導かれていると思わずにはいられません。

ある日のグループホームにて「新しい両陛下が三瓶に来られるとは何と光栄なこと、近くでお目にかかれるだろうか」と、そう語る皆様の瞳はキラキラと輝き、まるで若き頃に戻ったよう。

来年の五月晴れの日には、両陛下にお目にかかれるかも!?と期待に胸を膨らませておられます。どうか実現しますように。

時を同じくし、来年の春には「サンシルバーさわらびの新築移転オープン」と、さわらび苑の誕生の地、三瓶にとって一大イベントの「全国植樹祭」、まさに「縁（えにし）」に導かれた巡り合わせではないでしょうか。



三瓶山北の原



さわらびの窓から

社会福祉法人 放泉会

統括苑長 瓜坂 恭子

新元号のあの祝福ムードも一段落し、令和元年度のスタートを切ってから早半年度を経過致しました。

法人本部のある「さわらび苑」の窓から見える三瓶の山は、日増しに紅葉をし、秋の装いを醸し出しています。又、川向この紅葉した葉が一枚一枚散り、当地さわらび苑での最後の秋の華やぎを私達に見せてくれています。

然し、池田さわらびの里は春夏秋冬、自然の恵みや人垣の温かさで底抜けに明るい。

石見瓦、セピアカラーの山の匂い、刻まれた年輪の匂い。

省みますれば、昭和五十九年法人設立翌年四月に老人福祉施設として特別養護老人ホーム「さわらび苑」を開設致しました。三瓶町池田は大田市内より約十二km、更に県道のバス停から山道、上り下りの坂道入ること一・五km、決して交通至便のところではなく山間僻地であります。只々、ラドン含有量の多い稀なるラヂウム鉱泉浴が大きな特徴でありました。

二十年前の「女性施設長フォーラム」に参加したとき、講師の方から介護保険が始まったら、措置から契約になるので各施設の特徴を前面に出し、経営としての勝負になるというお話から「貴ホームのPRフレーズは、どんなことを掲げますか?」と一時間を与えられた記憶があります。

私は①「福祉は人なり」で気くばり、心くばり、目くばり、声くばりを基本とした職員教育の徹底 ②池田ラヂウム鉱泉の入浴・飲用のラヂウム泉の薬効果、この二つを掲げました。

御利用者には快適感、御家族には安心感で「さわらびカラー」を更に醸し出して参りたいと思います。

私の誕生日に贈られたカードの言葉に

「ひびくらしい...」?この五文字を追求しつつ来春のさわらび移転に臨みたいと決意を新たにしています。

今日までの皆様の御支援に感謝申し上げます、今後共変わらぬ御指導の程をどうぞよろしくお願い申し上げます。

音で繋がる感謝の輪

10月初旬の秋晴れの日、さわらびシンフォニックバンド（SSB）は松江市にある社会福祉法人みずうみにて行われた“いきいき祭り”に出演させて頂きました。新しく出来たばかりの体育館での演奏は沢山の方々にSSBを知って頂く良い機会となりました。演奏中は曲に合わせ歌われる方や踊ってくださる方もあり、園児からご利用者まで幅広く音楽を楽しみ体で感じて頂けたのではないのでしょうか。また、観客の中から「放泉会はすごい！」との声が漏れ聞こえていたそうです。みずうみの職員の中には涙を流しておられる方もあったとか。手前味噌ではありますが、未経験者もたくさん居る中スタートしたSSBですが、人に感動を与えられる演奏が出来たことは、私たちの誇りでもあります。

人は心

また11月に入り恒例の文化祭シーズンに突入しました。おかげさまでSSBも例年のとおり、志学・長久地区の文化祭にお招き頂き演奏させて頂きました。

そして10日に行われた池田地区の文化祭は、春に移転が決定しているさわらび苑にとって、池田では最後の文化祭となりました。精一杯の感謝を込めての演奏に会場は一体感が感じられました。

さわらび苑に対して注いで頂いた35年間のこれまでの感謝を、地域の方に伝えたいと職員が早朝から“手作り大判焼き”を作り熱々の大判焼きと共に感謝の想いを込めて託しお配りしました。皆様に喜んで頂けていたら幸いです。

また、さわらび苑開設当初の法人の役員OBや御夫人にも声をかけ、池田へかけつけて頂き、共に35年間の懐かしいあの頃を思い起こしながら感慨深いひとときでありました。

池田の皆様これまでどうもありがとうございました。移転してもどうぞよろしくお願い致します。



▲タクトを振る
みずうみ岩本雅之理事長

デイサービスゆうイング

この10月からデイサービスゆうイングでは、地域の人的財産にご協力願ひ、週1回藤原正明氏による歌声健康喫茶と題し、ご利用の方がリクエストされた歌をギターで弾き語りして頂いています。

藤原さんは、地元土江子供神楽で笛・太鼓の指導をされ、またご自身でも篠笛を製作されるという活動をしておられます。初回には、他にもご自身所有のほら貝や手作りのオカリナ、鼻笛など珍しい笛を、利用者に披露して下さいました。

お茶を飲みながらゆったり、好きな歌を聴いたり一緒に歌ったり楽しい時間を過ごして頂いています。

そして、もう一つ新たな試みとして少林寺拳法を取り入れた体操プログラムを取り入れました。椅子に座って行えるプログラムで、少林寺拳法四段の免状をもつ職員が、皆様の健康維持のためにお役に立てればと、ひと肌脱いでくれました。

初めに少林寺の呼吸法で気持ちを整えた後、少林寺の形を取り入れた体操を約15分間。座って行うと言えどかなりの運動量。無理のないよう注意しながら、和気あいあい楽しんで体操していただいています。これまで行っていた体操と両輪で好きな方を選択していただいています。

今後も新しいコースを考えながら、皆様にこれまで以上に楽しんで通っていただけるデイサービスを目指します。



川合小学校稲積さわらび庵訪問

10月18日、川合小学校の1年から4年までの児童42名が稲積さわらび庵を訪問してくれました。雨模様でしたが、川合小学校を徒歩で出発してごみ拾いや地域の方と交流しながら直線距離にして4.2kmの道のりを約2時間かけて到着。

到着すると忍原についてのクイズが出題されましたが、その難易度の高いこと。悲しいかな職員は殆どわかりませんでした。

稲積さわらび庵の歴史の説明を受け、庵内の見学をした後、思い思いの場所でお弁当を食べていました。

後日一人ひとり感想を書いて冊子にしたものを届けて下さいましたが、その中には「昔の家の階段は急であぶなかったんだな」「昔は電気もないくらしだったんですね」「屋根裏部屋がよかった」「エアコンが押し入れの中にあってビックリした」(当然ながら当時はエアコンを設置することは想定されておらず、エアコンや室外機の設置の為苦肉の策で押し入れに設置しておられました)等々、様々な感想を寄せてくれました。

現代の住宅に住む児童たちは、稲積さわらび庵を見学し電気やガスの無い生活や、昔の時計は電池ではなくゼンマイで動いていたんだなどと、200年の歴史に思いを巡らせ、今の便利な暮らしを築いてくれた人々の慎ましい生活を感じ取ってくれているようで、私たち職員も嬉しく思いました。



旬の贈り物

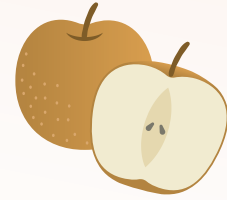
秋の贈り物が突然ゆうイングに届きました。これは、ゆうイングのある土江自治会のお隣にある稲用自治会で果物栽培と経営をしておられる「いなぎ農園」さんが今が旬の柿をご利用者の皆様に是非とも食べて頂きたいと持って来てくださいました。

いなぎ農園では、夏には赤梨の“しごんぼ梨（愛称）”を栽培されていますが、この“しごんぼ”とは、地元では“しごんならず”という方言があり、手の付けられない抜け目ないたずらっ子というような意味ですが、この梨でいう“しごんぼ”とはどういう意味でしょうか？とご利用者の皆様に尋ねると「きつと、どうしてもなく美味しい梨という意味よ～」と答えられた方がありました。

また柿にもいろいろ富有柿・干し柿などありますが、いなぎ農園では西条柿の合わし柿を作っておられます。この“あわし柿”ですが、この地域だけ“あわし”というそうで一般的には“あわせ”というそうです。

“しごんぼ”と“あわし”…今度真相を伺っておかないといけませんね。

「最後の収穫は職員さんに一個ずつでもお届けしようと思っていますが…」と残り物に福あり（笑）職員にとっても嬉しいひとことが…。そんな風に地域に支えられている放泉会なのです。



愛は人
こころはあい

土壌が違えば…

ある日のゆうゆう会で“あわし柿”を食べる会がありました。

同じ自治会内でも東と西では味が違うとかで…

「あなたのところは甘みが少ないかね？」

「私のところは土壌が良いから甘いけんね～」



同じ柿でも土壌によって甘みが違うと地元意識抗争が勃発しています。（「▽」）



親子で頑張った運動会

待ちに待った園内運動会は、あいにくの天気で長久小学校体育館での開催となりましたが、館内は熱気で満ち溢れていました。

たくさんの保護者の皆さんに見守られながら、子どもたち一人ひとりは、精一杯の力を発揮してくれました。『最後まで頑張る』ことのすばらしさを私たちにも見せてくれました。

着せ替え競争では、お父さんたちが素敵なレディーに変身！皆さんから大絶賛でした。



リハーサルの日には、『サンシルバーさわらび』を造ってくださっている建設中の業者さんが、「運動会頑張ってね！」と子どもたちにジュースを持って応援に来て下さいました。みんな大喜びでした。



親子遠足

三瓶山北の原“三瓶自然館サヒメル”に行きました。途中、さわらび苑に寄り、来春移ってこられるおじいちゃん、おばあちゃんへのメッセージを届けてきました。



サヒメルでは、最初にビジュアルドームを見た後はフリータイム……

お昼は北の原で美味しいお弁当！

食後、子どもたちは“すすきの迷路”に挑戦したり、原っぱを駆け回っていました。姫逃池付近では、野球教室も開かれていたようです。



「サンシルバーさわらび建設進捗状況」

照明が灯った工事現場はとても綺麗です

サンシルバーさわらびの工事現場では、今日もスタッフや職人さん達が元気に働いています。今の時期は五時半頃にはあたりが暗くなるので、安全確保のために灯された照明がとても綺麗ですよ！これは遅れに伴う夜間工事ではありません。工事は三月末の竣工を目指して順調に進んでいます。



年内には四階まで立ち上がります

「わー高いー！」クレーン車の高さが七十メートルにまで伸び、せっせと鉄筋を吊り上げています。サンシルバーは今三階の型枠・鉄筋工事中で、年内には四階まで立ち上がります。完成すれば建物の高さは十七メートルです。から、このあたりでは、ひととき高いですね。ちなみに隣のサンチャイルドが二階建て十二メートルです。

ドローンの空撮写真



職員が参加して色決めしました

そろそろ建物の色決めをする時期です。瓦と外壁は会長が決定!! 瓦は、お隣のサンチャイルドと同じ「さわらびカラー」の萌黄色、外壁は落ち着いたベージュ色です。内装は会長から働く職員、特に女性職員の感性を大切に指示があり、早速男女十六名の職員が集まって、色サンプルやフロアプランなどを前にし「ああでもない、こうでもない」と話しながら色決め会議をしました。どんな色ですか？それは内覧会でお楽しみ！浴室のグラーデーションなど、なかなか斬新ですよ。

ある日のこぼれ話（建設編）

ある日、散歩に出かける園児が口々に、職人さんに声をかけました。

「おじちゃ〜ん、（サンシルバーを）建ててくれてありがとー！がんばってね〜」

それを聞いた職人さんはちょっと照れた様子で

「おー、天气が良くていいなあ〜☀️ 気いつけて行ってくるだでえ〜バイバーイ」

職人さんたちへの感謝の気持ちが自然に芽生え、そしてきちんと伝えられる子どもに育っていることに、喜びと感謝の気持ちを抱いた職員です。

そしてまたある日、大きいクラスが遠足に出かけ、保育園に残った小さいクラスの子どもたちはお天気に誘われ、ベランダでお弁当を頂きました。そこに休憩中の職人さん。

園児：「これからお弁当たべるよ〜」

職人さん：「おー、残さず食べるだでー」

園児：「いっぱいたべるよー」「おいしいよー」

なんというコミュニケーション能力の高さ！

来年の春まで続く建設、これからまた、どんな会話が生まれるのかとても楽しみです。

懐かしいピアノと2年ぶりの再会

わたしはドイツ生まれの岡山県笠岡育ちのピアノ！平成29年11月、岡山県の吉田様宅から長久町土江のサンチャイルドへお嫁入り。トラックに乗ってやってきました！

忘れもしません、『すご〜い！きれい！』と喜んでくれた元気な子どもたちの声、そして一気に沢山の子どもたちのお姉さんになった事は感動でした。

あれから2年、かつて私を家族のように育ててくれた吉田様が、御親戚の方と会いに来てくれました。2年経っても色あせない木目の温かさ柔らかい音色と、子ども達と親しんでいる姿、私の成長をみられ安心されたことでしょう。

今回一緒に来苑された吉田様の叔母様は、琴瑛会の高月会主様で、大正琴の演奏者です。さわらび苑とのご縁から長きに渡る御付き合いです。また毎年の敬老会では、大型バスでの岡山笠岡市→さわらび→ゆうイング→岡山笠岡市への日帰りの演奏旅行が恒例になっていましたね。今回は懐かしのピアノとの再会と共に、思い出深い地に久しぶりに来られ、念願叶ったことを大変喜んで頂きました。わたしもこれで放浪会の一員になり叔母様のご功績を紹介出来光栄です。また、お会いできる日を楽しみに、これからも子どもたちと楽しい音を奏でていきたいなあ♪



編集委員のつぶやき

周りの山々を見渡すと、木の葉も深く色づき秋が深まって来ました。四季を感じる一瞬です！そして今年を振り返る時期にも成りつつあります。2019年、令和元年、流行語大賞候補の中には聞いたこともないような言葉も含まれていたりして、お恥ずかしい事です…でも切実に生活に関わる言葉も沢山ありました。・命を守る行動を・キャッシュレス/ポイント還元・計画運休・免許返納・4年に一度じゃない一生に一度だ・ワンチーム・等々…今年一年

様々な明暗が起こり、何時の時代になっても人任せではなく自分进行分析し判断力と行動力、より一層の助け合いの時代がやってきた様な気がします。1、地域で見守るシルバー社会 2、計画移転、一生に一度サンシルバーさわらび 3、職員全員、一人はみんなのために、みんなはひとりのためにワンチームに成って!!

流行語で終わらない様にひとつひとつを確実に噛みしめながら、残り少ない元年を新しい年に繋げていきたいと思います。

(担当：山下照子・小川 景・佐竹美香)